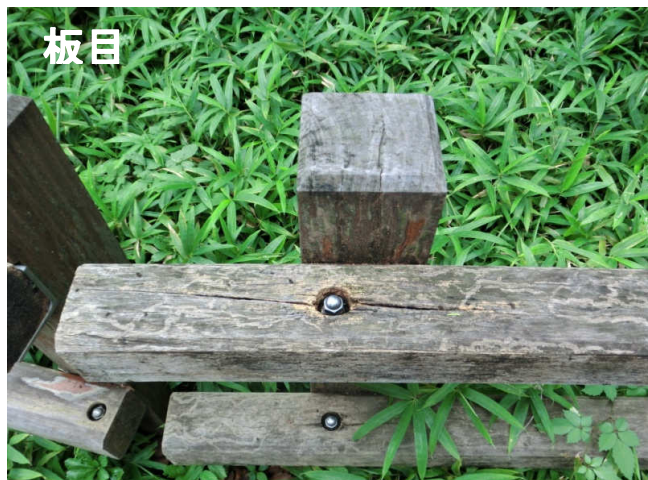


■板目と柵目 設置後18年目の姿  
＜熊本県花畑公園＞  
支柱、横木はレッドウッド材使用

施工 / 1993年3月  
撮影 / 2011年6月



20年以上の耐久性を求める現場であれば、柵目をかまぼこ加工にすべきです。



腐食は見られません。

板目材はエアクラックで割れが発生し、後に腐食が始まります。一方、柵目材には日割れがなく、腐食のない綺麗な状態です。30年以上を耐久を考えるなら、支柱の下部と地面の接点をできるだけ少なくし、頭部は5%程度の勾配でカットし、雨水が滞らないようにするなどの工夫により長い使用が可能になります。